

乙 第 号

加藤 礼識 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

|         |          |    |       |
|---------|----------|----|-------|
|         | 委員長      | 教授 | 齋藤 能彦 |
| 論文審査担当者 | 委員       | 教授 | 田中 康仁 |
|         | 委員(指導教員) | 教授 | 今村 知明 |

主論文

看護師の就労継続をエンパワメントする因子についての研究

Studies on the empowerment factors of career continuity of hospital nurses

加藤礼識, 伊藤雪絵, 吉田有希, 水野静枝, 御輿久美子, 今村知明

日本衛生学雑誌 (0021-5082) 70 卷 1 号 p 33-39 (2015.1)

## 論文審査の要旨

本研究では就労 10 年未満の看護師 1000 人を対象に Web アンケート調査を実施し分析しているが、日本国内における看護師の就労の大きな流れとして、大規模病院に就業したのちに、10 年以内に 200 床以下の病院や無床診療所等に再就職をするという流れを明確にしている。そのうえで、なぜ看護師が離職を選択するのか、離職防止に何が必要なのかに言及している。本研究では、看護師が離職を選択する理由が 6 個のクラスターとして分類された。「勤務がきつかった」「とにかく疲れた」「結婚のため」「職場の雰囲気が悪かった」の 4 項目は単独のクラスターであり、他 2 つは「労働条件」と「個人的生活要因」に分類されるクラスターであった。看護師の就労継続意欲を維持するためには、それぞれ 6 個のクラスターに関わる要因の排除が必要だと考察している。

公聴会ではこの研究はどのような形で社会に役立ったのかという問いに対して 7:1 看護が導入され、看護師が不足するなか、離職防止に役立つ情報となったという回答があった。また、アンケートの母集団の妥当性に関する質問に対しては、就労 10 年以下だと、すでに一度は離職を経験している対象が多いこと、また、インターネットを介するアンケートにも対応できる対象が多いことからこの対象を選んだ、との回答であった。大病院からの離職を防ぐにはどうすれば良いかとの質問に対しては、大病院はより教育に傾注するのが良いのではないかと、との回答であった。

本研究の結果は極めて有用なものであり、今後本領域のさらなる発展に寄与するものと評価され、公聴会における質疑も適切であり参考論文と合わせて学位を授与するに相応しい研究と考える。

## 参 考 論 文

1. 国際的イベントに向けた食品防御  
加藤礼識, 神奈川芳行, 赤羽学, 今村知明  
食品衛生研究 67 (8) 巻, 15-24 頁, 2017 年 8 月
2. 湯治目的の重症患者が集う温泉地と 地域医療体制の協調に関する研究  
加藤礼識, 野田龍也, 今村知明  
温泉科学誌 65 (1) 巻, 54-62 頁, 2015 年 6 月

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに公衆衛生学の進歩に寄与する  
ところが大きいと認める。

令和3年6月8日

学位審査委員長

循環器病態制御医学

教授 齋藤 能彦

学位審査委員

運動器再建医学

教授 田中 康仁

学位審査委員(指導教員)

公衆衛生学

教授 今村 知明